

物語はラグビーの試合からはじまる。

監督「トライだがや勇二ーッ！！弁天堂大学ラグビー部創立以来初のトライだぎゃーっ！！」

と**隻眼の監督**が喝を入れる中、弁天堂大のエース選手が突進する。トライまであと一歩というところまで来たが、相手チームの選手にタックルをされて一歩届かず、惜しくもトライは実現しないまま試合終了を迎えてしまった。

ところで、**創立以来無トライとは、ずいぶん弱いんですね…。**

しかし、それ以上に重大な問題がおきていた。トライに迫った選手は、勇二というのだが、タックルされた際にゴールポストに頭部を打ちつけ、死亡してしまったのだ！！

ラグビー描写において、**大怪我や死亡といったデリケートな話題を、開始数ページであっさり持ち出すとは、この漫画侮れない。**

勇二の葬儀がとりおこなわれる中、勇二は**幽霊**となっていた。

当初、自分が死んでいることを認識できないでいた勇二だったが、家族や監督の言動で自分の死に気付くのであった。

監督「勇二よ。おみやあの遺志は必ずワシらが達成してみせる。安心して成仏するがや！！」

勇二「成仏できるかっ！！ほとんど俺だけでもってたチームが、俺が欠けて試合に勝てるわきゃねーだろ！！」(幽霊なので会話は通じていない)

ともかく、成仏できず途方に暮れる勇二であったが、そこに爺さんの幽霊が現れた。



**帝国陸軍ルックスで堂々の登場だ。**爺さんは、なんと敵の爆撃を受けてから、48年以上も彷徨っているのだという。

爺さんは、勇二がこの世でやり残したこと、すなわち未練があるから成仏できないのだと説く。ショックを受ける勇二だったが、

爺さん「おいボーズ。どうしてもこの世での未練をなくしたいのなら方法がないわけではないぞ」

その方法は、死んだばかりの肉体、それも肉体の損傷が少ないものに入り込めばいいというのである。ちょうどそのとき、とある病院で若者が死んだようだ。

爺さん「もし、あそこで死ぬ奴がその条件を満たせば、お前は再び生き返ることができる。そしたら、またラグビーとやらをやって、果たせなかった想いを遂げればいい。どうじゃやるか？」

勇二「やるさ！100年もこんなままで彷徨ってられるか！！」

思い切って新たな遺体に飛び込んだ勇二。そして、見事に蘇りを果たしたのだが…



**なんと、女の子だった。**

遺体の顔には白い布が被せられていたのでわからなかったのだ。ここに女の子が大活躍するラグビー漫画、ノーサイドが幕を開けた！

勇二が乗り移った肉体は、姫神あかね。百合ヶ丘女子大1年19歳の可憐な女の子だ。

なお、混乱しやすいところだが、今後は魂が勇二であるこの女の子は「あかね」として呼称することにする。

あかね「はあ〜っ。これじゃあラグビーなんかできねえじゃねーかよお。女じゃなあ…」

その一方で、

あかね「しかし…この娘、結構マブいよなあ」

そう、あかねはかなりの美少女なのだ。当然、悪いことを思いつくあかね（勇二）。自分自身のあんなところやこんなところに手を伸ばし、女体を楽しもうとする（笑）。

そこで呑気に爺さん登場。

あかね「てめえっ！これじゃあラグビーなんかできねえじゃねえか！！」

爺さん「ほお。そのラグビーちゅうのは女ではできんのか」

あかね「あたりめえだろ！！ラグビーは男のスポーツってちゃんと規則にも…」

ここまで言ったところで、あかねは気付いた。

あかね「…さてよ。女は試合に出れないなんて聞いた事なかったな」

いやいやいやいや、そういうことじゃないでしょ。女の子が試合にふつう出ないのはルール上の問題じゃなくて、体格とか体力の問題だと思うんですけど！

ともかく、あかねは、ルールブックも確認して、女でも試合に出られることを確認した。

さっそく、両親に弁天堂大学への編入を希望するが、百合ヶ丘女子大よりずっと格下のクズ大学に入ろうとすることを、当然のごとくいぶかしがられてしまう。

あかね「クズで悪かったなーっ。勉強できんのがそんなに偉えのかよーっ！！」

正真正銘、育ちのよいお嬢様であった娘の**変貌ぶり**に驚く両親だったが、ともかく弁天堂大への編入を果たしたあかねであった。

ところかわって弁天堂大学のグラウンド。あかねは弁天堂大学のラグビー部にとりあえずマネージャーとして入部した。

魂は勇二なので「よっ。久しぶりだなあ」と皆に話しかけてしまう、あかねであった。

あかねは、選手としての練習参加を希望するが、女の子を選手として使える訳がないと監督に拒否されてします。しかし、あかねは部員を集めさせ、

あかね「今から向こうのゴールにトライするから、お前らは全員で俺を止めてみせろ」

と宣戦布告をした。これで実力を証明しようというのだ。

「**堂々と女の体に抱きつける**」といって下心丸出しの部員達を華麗に抜き去り、最後にタックルを受けながらも、あかねはトライを決めた！

監督「本当に一人で15人抜いちまったがや」

部員達にダメ出しをするあかね。さすがにムツとした部員達。近藤という部員が食ってかかる。

近藤「てめえにラグビーの何がわかるって言うんだよ！！ああっ！！」

しかし、そこは中身が勇二のあかね「近藤〜っ。お前のホーケーは治ったのか？一人前の事言うのは皮むけてからにしろよな」

と、**近藤の致命的な弱点**をつき、ひるませた。しかし、これくらいでひるむ近藤も近藤である。

だが、慎重な監督は、この結果を受けても、あかねを選手として認めようとしなかった。

帰宅し、途方にくれるあかねであったが、そこへ再び爺さん幽霊登場。いいタイミングで登場する爺さんである。実はストーカーなんじゃないか。

一度死んだ身の勇二としては、あかねの体から幽体離脱することは容易である（マジかよ）。

それを利用し、夜な夜な監督のもとへ勇二の霊として現れ、女の子を試合に出すようお願いしろというのだ。

爺さん「ちょいとした心理作戦というやつじゃ」

…それは心理作戦じゃなくて、**幽霊によるガチの嫌がらせ**では？

ともかく、この作戦により、夜な夜な出現する勇二の霊によって監督は疲弊した。

そんな中、ある日の試合、相変わらず弱小の弁天堂大はボロボロの試合展開をしている。当然、創部以来のトライ0記録も更新中だ。観客からも失笑がもれる始末である。試合中、部員の一人が怪我をしてしまった。部員が15人ピッタリしかおらず、控えがいないことで困り果てる監督であったが、あかねが視野にしつこく入ってくる。監督「ええい、もうっ！あかね行くがや！」あかね「ウオッス！！」ついに、あかねは試合への出場を許された。

女子が出場するということで、驚きを隠せない相手チーム。そんな相手を尻目に、後半開始直後、あかねがキレのあるステップで敵陣に切り込んだ！なかなか鋭いプレーでチームを牽引するあかね。しかし、いかんせん女の子の身体だ。なかなか得点につながらないまま、ダメージが蓄積していく。

あかね「くそっ…この体じゃかなりキツイぜ…」

膝に手をつくあかねに、近藤が声をかけた。

近藤「そんなに飛ばさなくていいぞ。どうせ負け試合なんだからな」

あかねは怒った！近藤の胸ぐらをつかみ、

あかね「こちとらいっぺん死んでんだ！！おめーらも死ぬ気で一矢報いてみるよ！！」

この一言に、近藤の気持ちは揺れ動いたようだった。

試合終盤、ラインアウトから、再びあかねがボールも取った。ゴールラインまであと5メートル！しかし、ここで相手の2番の選手にタックルをうけてしまう。

あかね「こっ…これまでか！！」

ここで、近藤をはじめとする弁天堂の選手が奮起した！味方であるあかねの背後から、数名でタックルをして、そのままあかねをインゴールまで運搬！



近藤「あかね、ボールを離すなよ！！」

ノーサイドのホイッスルとともに、見事に創部以来初のトライをあげることに成功した！

あかねを中心に、大きく盛り上がる弁天堂大メンバー達。まあ、試合には普通に負けたんですけどね。

監督「今のトライこそ、ラグビーの精神…ワン・フォア・オール オール・フォア・ワン  
そのものだがや。こいつら、ひょっとしたら強力なチームに化けるかもしれにゃあで！！」  
ラグビーの格言を引用しつつ、アッサリと手のひら返しをする監督。あと、前から思っ  
たんですが、監督、訛りキツすぎませんか？

ともかく、女の子であるあかねの活躍によって、男子部員達のラグビー精神を引き出すこ  
とに成功したのだった。今後の弁天堂大が楽しみだ。